

韓国・ソウルの音楽文化を見学してきました。

2026年2月24日から27日にかけて、音楽教育ゼミは韓国・ソウルへフィールドワークに行き、韓国の音楽文化を見学してきました。

25日は、地下鉄でソウル市内を回りながら様々な音楽スポットを訪問しました。

- [HiKR GROUND] 韓国観光公社による広報施設で、K-POP はじめとした韓国の今の文化を体験できます。K-POP のMVにありそうないつかのシーンを再現したブースでは、自分でBGMを選んだり照明を組み合わせたりしながら動画撮影ができます。セルフフォトブースやスーパーマーケットなどの韓国の日常を再現したブースもありました。
- [永豊文庫]大型書店のCDコーナーに行きました。大型スクリーンで最新の流行のMVが流れていて、日本ではあまり紹介されていないアーティストも知ることができました。
- [K-star Road]かつて音楽事務所が密集していた地域が、観光地として整備されています。カンナムドル(カンナム(江南)+韓流アイドル(idol) +人形(doll))と名付けられた、K-POPの有名グループをイメージしたクマのオブジェが並んでおり、それぞれお気に入りのカンナムドルと記念撮影をしました。
- [芸術の殿堂 オペラハウス]ホールや美術館などの文化施設が多数集まったエリアです。ミュージカル劇場とオペラ劇場の音響特性の違いについて学んだ上で、オペラハウスの外観及びロビーを見学し、韓国のクラシック音楽文化の中心地の空気を感じてきました。日本では多目的ホールが多く、オペラハウスは東京の新国立劇場などごくわずかしかなかった。学生はみな、初めてのオペラハウス訪問でした。ちょうど、日本人キャストによる「千と千尋の神隠し」が上演中でした。
- [国楽博物館]日本と韓国の古代文化の繋がりについて学んだ上で訪問しました。プロジェクトマップを駆使した宗廟祭礼楽の紹介から始まり、迫力に圧倒されました。日本では音階のある体鳴楽器は平等院の雲中供養菩薩像に見られるものの伝統音楽の楽器としては残っていませんが、宗廟祭礼楽では編鐘、編磬、方響として使われています。また、色々な楽器に動物が彫刻されているのも興味をひきました。ルーツに共通する部分を持ちながらも、日本と韓国の宮廷音楽が別々の発展をしてきたことを学びました。その他にも、様々な音楽や舞踊が、楽器展示や映像などで紹介されていました。ゲームを通じて伝統舞踊を体験できるコーナーや、自分で楽器編成を選んでアンサンブルを再生できるコーナーなどもありました。伝統音楽の展示と聞いて堅苦しいものを想像していましたが、楽しく学べる工夫がされていました。資料室やアーカイブも整備されており、研究施設でもあることが伺えました。
- [STAR AVENUE]ロッセ百貨店本店の入り口に、K-POPの有名アーティストの手形が飾られており、好きなアーティストとのHigh Fiveを疑似体験できました。

今回、韓国伝統音楽、クラシック音楽、そして最新流行のK-POPと、様々なジャンルの音楽文化に触れることができました。また、K-POPが観光にも活用されていることを感じました。

26日は、学生が自分たちで計画を立ててソウル市内を観光し、ショッピングやグルメなどを楽しみました。異国の音楽文化を学ぶことができ、また、学生同士の仲も深まって、充実した4日間となりました。

